

## 令和4年度の取組（案）

令和4年6月

南 城 市

## 1 今年度の取組概要(案)

- 公共交通の利用を促すため、昨年度同様に、利用促進イベントの実施、公共交通便りの発行等を行います。
- さらに、今年度は市の負担により、市民を対象に 65 歳以上及び障がい者の運賃実質無償化を実施します。
- また、令和 4 年 4 月に新たな運行計画で N バスを運行していますが、今年度の利用状況をみて、必要に応じて令和 5 年度の運行計画の見直しを行います。

表 1.今年度の取組概要(案)

区分	取組名	概要
公共交通 利用促進策	65 歳以上及び障がい者の実質無償化	市民を対象に 65 歳以上及び障がい者については、N バスの実質無償化を実施
	利用促進イベントの実施	N バスの周年イベント、クリスマス、バレンタイン等の行事にあわせたイベントを実施予定
	公共交通便りの発行	夏、冬の 2 回、公共交通の利用促進を図るため、公共交通便りを発行。
N バスの運行見直し	令和 5 年度の運行計画見直し	令和 4 年 4 月の見直し以降の利用状況を踏まえ、必要に応じて、N バスの運行見直しを検討

## 2 公共交通利用促進策

### 2.1 65歳以上及び障がい者の運賃無償化

- 65歳以上及び障がい者の市民の方の外出を支援するため、これらの方を対象にNバスの運賃を実質無償化します。
- 8月から年内での無償化導入を目指し、今後、検討を進めていきます。
- 無償化が適用された方の運賃は、市が負担します。

### 2.2 利用促進イベントの実施

- Nバスの利用促進を図るため、公共交通アテンダント「Nバス娘」と連携し、ハロウィンやバレンタインデーなど季節に応じたイベント実施します。
- イベントは新型コロナウイルスの感染状況をみて実施します。

### 2.3 公共交通便りの発行

- 公共交通の利用促進を図るため、夏期と冬期の年2回、公共交通便りを発行し、全世帯に配布します。

第10号(2022.3)

# 南城市公共交通だより

令和4年4月1日よりNバスのダイヤと一部ルートが変わります。

① B系統：日中を通して双方向  
② C、F3系統：向陽高校へのアクセス向上  
③ G系統：大城地区経由に変更  
④ A3、E、H系統：他の路線に統合  
⑤ A系統：早朝便の運行(増便)

① B系統は日中を通して両周りで運行します。

これまで通り(左)で運行してきたA3系統はB系統に振り替えます。

●これまでのイメージ

系統	午前	午後
B1	●●●●●●●●	●●●●●●●●
B2	●●●●●●●●	●●●●●●●●

●これからのイメージ

系統	午前	午後
B1	●●●●●●●●	●●●●●●●●
B2	●●●●●●●●	●●●●●●●●

●急行便のイメージ

通勤・通学期間

●急行便で省略される経路

② C、F3系統での向陽高校への登下校が便利になります。

③ G系統で大城地区等から向陽高校への登校が便利になります。

新型コロナウイルス感染症への対応について

市では、コロナ禍においてNバスやおでかけなんじいをご利用頂けるように様々な感染対策を実施しております。どうぞ安心して市内公共交通をご利用下さい。

発行：南城市企画部企画課

④ A3、E、H系統：他の路線に統合します。

⑤ A系統で早朝便が運行されます。

令和元年の公共交通の再編により、公共交通での登下校が増加しました。

令和3年8～9月に実施した小中高生アンケートより、Nバスや路線バスでの登下校が増加している実態が把握されました。一方で、クルマでの送迎は増加し、徒歩での登校が減少しています。

小学生の登校手段の変化

手段	平成29年	令和3年
徒歩	70%	60%
自転車	24%	25%
車で送迎	2%	1%
Nバス	1%	11%

中学生の登校手段の変化

手段	平成29年	令和3年
徒歩	58%	72%
自転車	24%	5%
車で送迎	1%	1%
Nバス	1%	14%

高校生の登校手段の変化

手段	平成29年	令和3年
徒歩	11%	17%
自転車	2%	3%
車で送迎	69%	76%
Nバス	1%	3%

新型コロナウイルス感染症への対応について

市では、コロナ禍においてNバスやおでかけなんじいをご利用頂けるように様々な感染対策を実施しております。どうぞ安心して市内公共交通をご利用下さい。

発行：南城市企画部企画課

図-1.公共交通だより10号(令和4年3月発行)

## 3 Nバスの運行見直し

### 3.1 Nバスの運行見直し

---

- 令和4年4月以降のNバスの利用状況や、利用者、地域からの要望等を踏まえ、必要に応じて令和5年度におけるNバスの運行計画の見直しを行います。
- 見直しを行った路線以外にも、幹線バスへのアクセス向上など、利便性向上に向けた見直しを検討します。